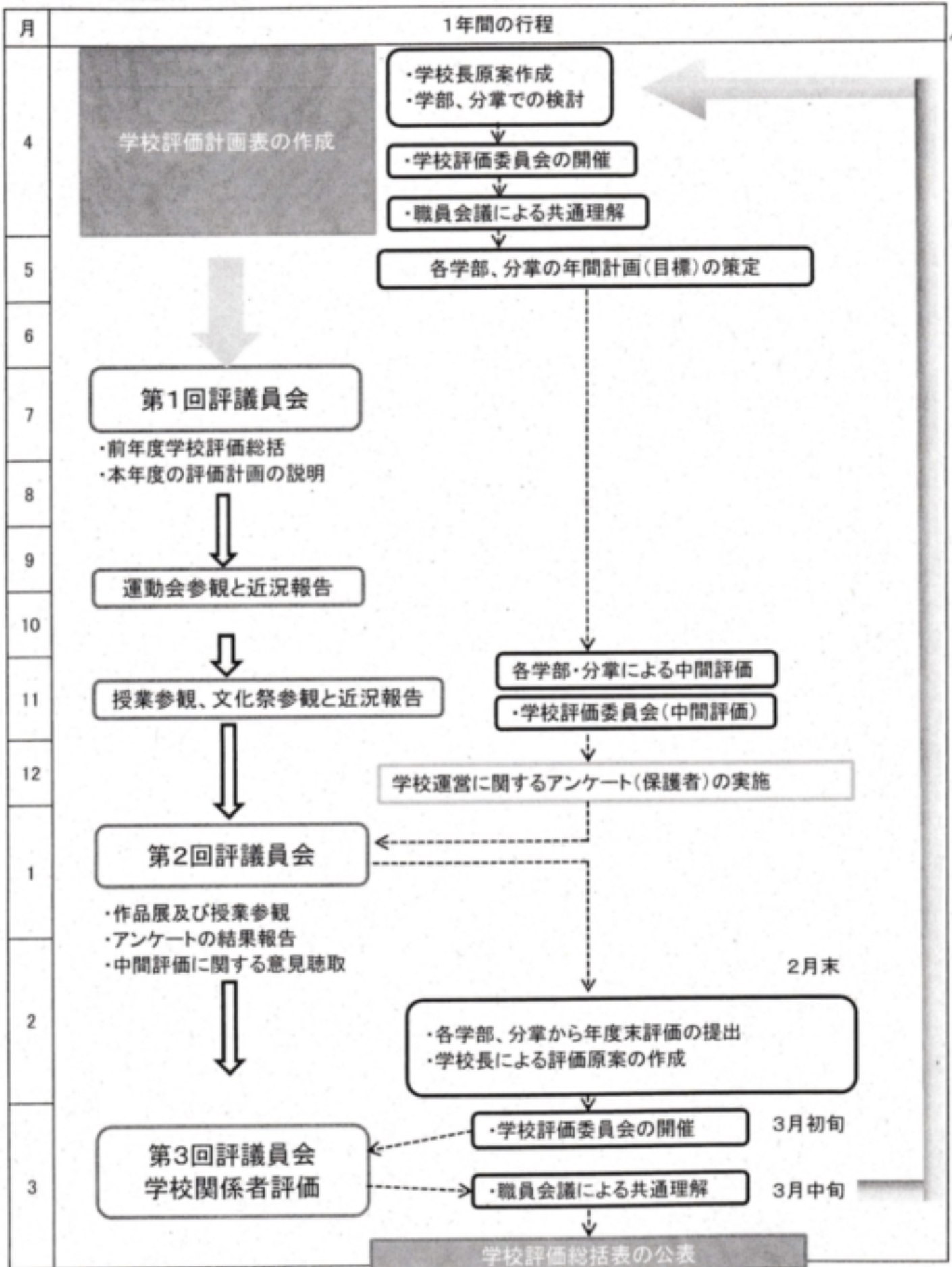


13 学校評価年間計画



令和2年度 学校評価計画表

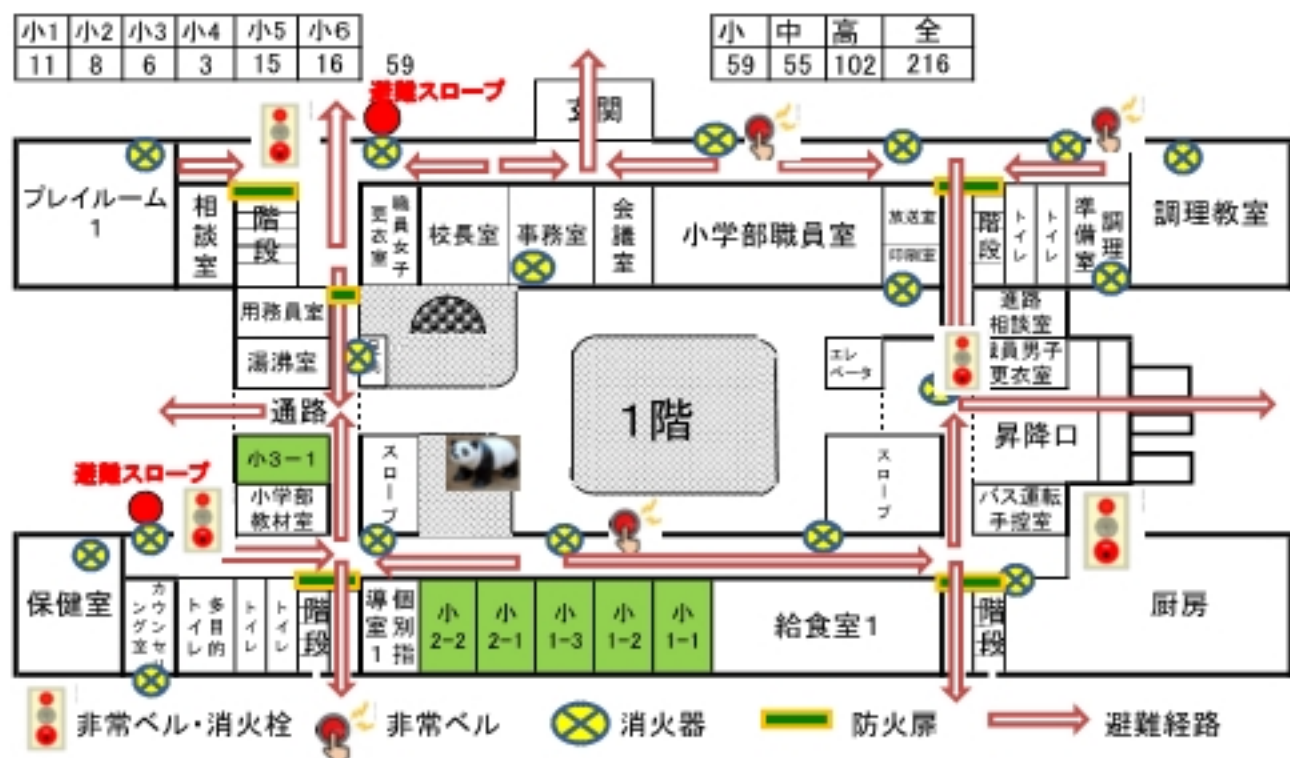
奈良県立西和養護学校

教育目標	○心身の健康の保持・増進を図る。 ○発達段階、障害の状態及び特性等に応じ、自ら意欲的に生きる力を養う。 ○豊かな情操と相手を大切に思う心を育て、共に生きる態度を養う。				総合 評価	
経営方針	○子どもとのコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション、教職員同士のコミュニケーション、異職種間・関係機関等、種々のコミュニケーションを豊かにし、一層の信頼関係作りと情報共有に努める。 ○一人で悩まず、一人で抱え込まず、教職員全員の知恵と力を合わせ、組織力を高めながら信頼される学校作りを進める。 ○本校への一層の理解と協力を得ながら、小・中・高等学校等、及び関係機関との連携を深める。					
令和元年度の成果と課題	本年度重点目標		具体的目標			
・新学習指導要領の実施に向け、計画的に研究が進められた。 ・ICTの活用については、操作の基礎研修ではなく、授業活用や教材作成に重点を置いた研修が求められる。一人一人に応じた学びの創造をしていきたい。 ・道徳科をそれぞれの学年の段階に向けてきちんと位置づけ、意識しながら進めていくことが大切である。今後も授業や研修に取り組み。 ・キャリア教育と進路学習が現場体験、校内実習、現場実習の体系化は、児童生徒の学びの積み重ねの点からとても大切なことである。 ・保護者にとって進路学習の取組をもっと「見える化」することや「保護者参画」といった面も強くしていく。 ・キャリア教育の考えから、小学部から自立を意図した連続性や系統性のある計画や実施が大切である。 ・校務支援システム稼働に備えて様々な準備がなされた。今後も各教員がシステムに精通し、教育実践に反映させていく必要がある。 ・地域のセンター校としての役割を果たせた。今後も地域との連携を深めていきたい。 ・教職員の人権意識向上の取組がなされた。研修内容を保護者に積極的に伝えていくことも必要である。 ・今後も児童生徒の思いを大切にしたい取組が大切にされるよう、研修を続けていく。 ・情報の発信は、内容を精選し、必要な人に必要な情報が伝わるようになればよいと思う。 ・喜びや達成感を大切に「体育」を充実させる取組ができた。 ・生徒指導の取組は、キャリア教育とも関連付けながら自立や自己実現といった観点でおこなっていく。 ・通学や検定・スマホの使用に関しては、生徒の実態を把握し、適切な指導がおこなえた。 ・健康な身体を育んだり、豊かな食生活を送るために、歯と口の健康に関する取組は今後も続けていく。	1 新学習指導要領への理解を深め、本校におけるカリキュラムマネジメントの検討	○新学習指導要領に関する理解を深め、「一人一人が主体的に学べる学校づくり」をテーマにして指導計画の見直しを行う。 ○実践、研修を通し、障害特性に応じたICT機器活用方法を研究する。				
	2 本校のキャリア教育と進路指導のさらなる充実	○現場体験、校内実習、現場実習の系統的な実施を行う。 ○義務教育段階のキャリア教育と進路学習の充実を図る。				
	3 人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動を行う。	○働き方を見直し、自らの授業力を磨く時間を確保する。 ○部長を中心として分掌業務の見直し削減を行う。 ○人権教育への理解と推進を図る。				
	4 地域と共にある学校づくりを充実するために、地域と連携・協働した教育活動を進めるとともに、センター的機能の推進を図る。	○校区内の教育委員会、就学指導委員会との連携を図り、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場の共通理解を図る。 ○模擬販売実習や清掃活動等、積極的に地域と連携、共同した教育活動を行う。				
	5 健康で安全安心な学校生活を過ごせるような、健康・安全教育の推進を図る。	○「歯・口の健康づくり」をテーマにした健康教育を推進する。 ○学校防災マニュアルに即した、避難学習や緊急時の対応訓練を行う。				
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価(結果分析)及び改善方策
学習指導	教科指導の充実	○「一人一人が主体的に学べる学校づくりー新学習指導要領に照らしてー」の研究テーマのもと、学部間・他分掌との連携を図りながら、各学部における研究を計画的に進める。【継続】 ○新学習指導要領をふまえて各教科の指導計画を作成する。(小中学部) (継続) ○教育課程について検討し、年間指導計画に反映させる。(高等部) (継続)				
	道徳教育の充実	○「特別の教科 道徳」の実施に向け、課題を整理し、取り組み加担検討を行う。(改定)				
	ICT教育の充実	○学校生活や授業、行事等で生徒の実態に応じたICT活用方法を検討し、研修を行う。(継続)				

進路指導 キャリア 教育	保護者や本人のニーズ に応じた進路指導の充 実	○中学部におけるキャリア教育に視点をあてた進路指導に取り組むとともに3年間の進路学習の 計画を再度見直す。(継続)			
		○高等部現場実習における評価や課題を進路指導部で集約し、専門教科の授業に活かす。(継続)			
		○高等部1年生からの現場実習を充実させ、卒業後に向けて必要な態度や知識の習得に努める。 (継続)			
進路指導 キャリア 教育	進路の理解推進	(高・進路)「進路の手引き」を適時改定し、「高等部の教育」との一体化を図るとともに全校 職員に向けた進路指導情報の発信に努める(継続)			
		○個別の教育支援計画に基づいた個別の指導計画の作成と、関係機関との連携においてその活用 を進める。(継続) ○各関係機関・事業所との引き継ぎ資料を作成し、生徒個々の円滑な卒後の移行につなげる。 (新規)			
人権教育	人権教育スキルの向上	○人権教育年間計画に基づいて、人権教育研修を実施する。(継続)			
		○人権の観点で児童生徒への関わりを見直す機会として、セルフチェックを実施し、お互いが検 証し合うことによって、更なる人権意識の向上を目指す。(継続)			
		○障がい者理解のリーフレットを活用し、啓発活動を積極的に実施する。(継続)			
地域と共に ある学校づ くり	地域への啓発	○学校ホームページの内容の充実と精選を行うとともに、その役割と今後の方向性について検討 する。(継続)			
健康・安全	安全教育	○学校防災対応マニュアルの見直しを行い、新たな事象(コロナウィルス等)への対応について も作成、追記する。 ○地震火災避難学習の実施計画を緊急地震速報システムの使用を前提として見直しを行い、避難 訓練を安全に実施する。			
		○公共交通機関を利用して通学する生徒に、安全指導の内容を具体的に見直し、緊急時の対応について周知する。(継続)			
	生徒指導	○携帯電話やタブレットの使用法やマナーについての学習を計画的に行う。(継続)			
	健康教育の推進	○関係機関、学校医と連携し、歯と口の健康の取り組みを行う。(継続)			

A: 充分である B: ほぼ充分である C: あまり充分でない D: 改善を要する

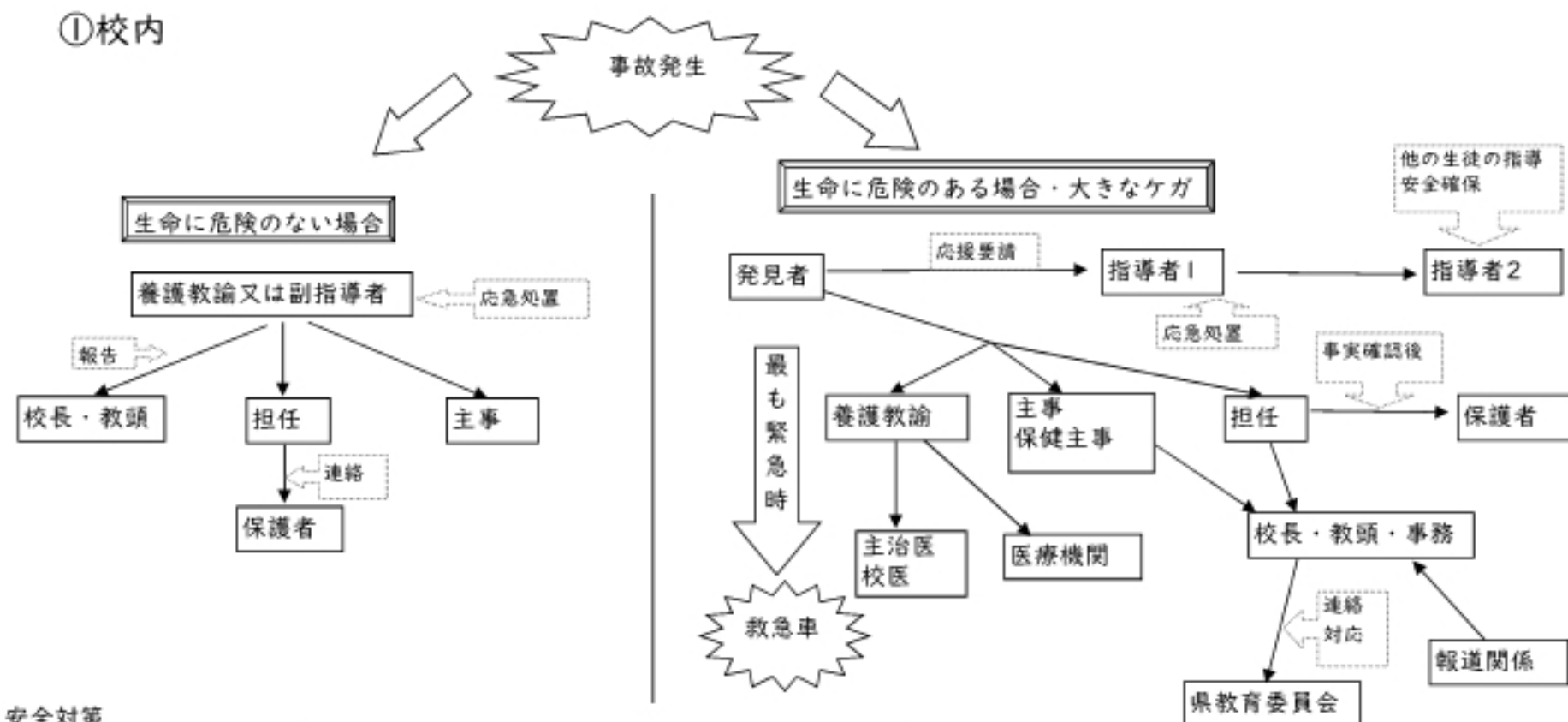
令和2年度 避難経路図



救急体制

(1) 事故、大きなケガ・病気等発生時の対応

①校内



安全対策

- ・最も緊急を要するとき（呼吸停止・意識なし等）は、現場の者が直ちに救急車を要請する
- ・観察後に救急対応するときは、連絡を密にし協議の上、救急車要請を決定する
- ・救急車到着後の付き添いは担任・養護教諭が行う
- ・病院で手当を受けるときは、事故を起こした前後の事情を詳細に説明する（事情のわかる者が引率）
- ・事実確認後に家庭に連絡。全教職員が事故発生時の状況を共通理解した上で教育委員会などに電話連絡する
- ・養護教諭が不在時は、主事・担任が養護教諭の役割を担う。
- ・事故の原因や問題点を明らかにし、その反省と改善策について全教職員の共通理解を図り、以後同様の事故が起こらないようにする（アクシデント報告・ヒヤリハット報告）